

[合格に向かってスタートダッシュ]

# 受験勉強の「年間プラン」を作成し、的確な対策を！

高3生の受験する2024年度入試は、最後の現行課程入試になる。変化の境目で受験生はどう動くのか、2023年度の特徴も振り返りながら予想してみよう。志望校合格のため、プランを立てて受験に挑もう。

## 高3生は、2024年度現役合格への思いが強い。高1・2生は「新学習指導要領」による新課程!!

2024年度は現行課程による最後の入試です。大学入学共通テストは今度で4回目の実施となりますが、その前は30年間続いた「センター試験」でした。2020年度最後のセンター試験では、次年度に初めて導入される共通テストに不安を抱いた受験生が、志望大学のレベルを下げてでも、現役合格を目指す傾向が見られました。

高1・2生が受験する2025年度以降の新課程入試は、新教科「情報」に加え、国語、地歴・公民、数学に変更があり、教科・科目数が再編されます。大きな変化とも言えますので、2024年度入試は最後のセンター試験時のように、「現役で合格したい」という高3生が増えると予想されます。

合格を手にしなかった2024年度の受験生（過年度生）には、2025年度入試において現行課程の科目や内容で出題する「経過措置」がとられます。この「経過措置」の詳細は、P.13で紹介します。

## 国公立大へ進学するには「共通テスト」が必須。私立大志望者も、「共通テスト」を利活用したい。

2023年度共通テストは、全体としては大過なく終了しました。コロナ対策については感染対策のとられた会場で、「With コロナ」での実施となりました。

ご存知のように、共通テストは国公立大学へ進むために必須であり、私立大学も「共通テスト利用入試」として活用しています。ですから、重要なテストです。ちなみに、2023年度は国公立大学などをあわせて、870大学が利用しました。

国公立大学・私立大学の入試スケジュールの骨子を次ページの表にまとめてみました。受験勉強のスター

トにあたっては、入試の流れを頭に入れておき、的確な対策を立てましょう。

## 勉強の効率を上げる「年間プラン」を作成。現在の自分に必要なことを認識して取り組む。

受験勉強をするには、「年間プラン」を用意するのがベター。「この時期には〇〇に取り組む」といった、毎月の目標を決めて準備するのが効率的です。先手必勝のつもりで、早めに取り組むことが大事です。

例えば、一般選抜に向けては、4～7月は「基礎力養成期間」、夏季休暇の8月は「弱点克服期間」、9～12月は「実戦力アップ期間」、1～2月「直前チェック期間」などとして勉強に取り組むようにします。

国公立大はすでに受験科目を公表していますから、進学したい大学・学部・学科の入試科目をチェックし、それぞれの期間に割り振って勉強します。その折は、自分の現在の実力を自己評価し、配点が多い科目に時間を割くようにします。共通テストは科目数が多いですから、時間配分を上手に行う必要があります。

当然、塾や予備校に通う受験生もいますが、すべてを任せてしまうのではなく、現在の自分には何が必要かを確認し、それに合わせて力をつけるようにすることが大事です。

## 2023年度の特徴を知って2024年へ進もう!! データサイエンス・文理融合学部が増加している。

ここで2023年度入試の特徴を振り返りましょう。2024年度はより安全志向が強まると予想されます。

【1】最近の傾向ですが、合格を早く手に入れたいという受験生が増えています。総合型選抜や学校推薦型選抜への挑戦者が増加傾向にあります。

【2】経費節減等で地元志向は続いています。コロナ禍が沈静化に向かうに従って都市部を目指す受験者も

## ■ 2024年度国公立大学入試スケジュール ■

実施月	国公立大学の予定	日時（予定）	私立大学の予定
7月	入試科目などを発表	～7/31まで	
9月	大学入試センター、共通テスト「受験案内」を配付開始 総合型選抜の出願受付開始	9月から 9/1以降	↑ 総合型選抜
10月	共通テストの出願受付	9月下旬～10月上旬	
11月	学校推薦型選抜の出願受付開始 総合型選抜の合格発表（共通テスト課さない）	11/1以降 11月以降順次	↑ 学校推薦型選抜
12月	「募集要項」発表・配付 学校推薦型選抜の合格発表（共通テスト課さない）	～12月中旬 12月以降順次	↓
1月	共通テスト本試験 2次（個別）試験の出願開始	1/13・1/14 1/22～1/31	↑ 一般選抜
2月	総合型・学校推薦型選抜の合格発表（共通テスト課す） 前期日程試験	～2/7まで 2/25以降	↑ 前期 中期
3月	前期日程の合格者発表 公立大中期日程試験 後期日程試験 中・後期日程の合格者発表	3/6～3/10 3/8以降 3/12以降 3/20～3/24	↓ 後期（3月）

\* 大学入試センター、国立大学協会等の発表をもとに作成

増加。2023年度は都市部の大学を受験するケースがやや増えました。

【3】2023年度は「データサイエンス」系の学部が増加。従来の学問の枠組みにとらわれない文理融合学部が増加し、それらの学部を目指す受験生も増えました。

【4】2023年度共通テストでは、「学力の3要素」が色濃く出た科目がありました（問題文が多く、長い傾向）。

【5】数学の易化による平均点のアップを受けて、志望を変更した受験生もいました（志望校は得意科目と試験科目の配点バランスを考えて決定します）。

## 教育の基本は「学力の3要素」を身に付ける。社会情勢に対応するため学力の「質」を変えた。

文科省は、これまでのセンター試験や2次試験に見られる知識偏重型、1点刻みでの選考方法では将来の社会に対応する人材が育たないという認識を持ち、「学力の3要素」を重視することにしました。

今後の社会情勢に対応するために、学力の「質」を変えたのです。知識や技能をベースに、「思考力・判断力・表現力」が重要になるからです。実社会のテーマでは、常に正解があるとは限りません。答えがない場合も、往々にしてあります。

すでに小学校から大学まで、問題を自分で見つけて解決する力を育てる「主体的・対話的な深い学び」、いわゆる「アクティブ・ラーニング」(AL)のスタイ

### 「学力の3要素」

- ①知識・技能の確実な習得
- ②「思考力、判断力、表現力」の養成
- ③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度、生きる力の育成

ルが全教科で導入されてきています。

思考力や表現力に比重を置いた入試方式に転換することを見据えた同スタイルは、一方通行の受動的な授業ではなく、生徒自身が学んだ知識を活用する能動的な授業への転換です。

## 「出題形式」や「問われ方」が異なってくる。2021～23年度の「過去問」を見ても分かる。

「共通テスト」と「センター試験」の大きな違いは、出題方法等にあり。出題範囲や必要になる知識量は変わりませんが、「問われ方」に違いが出てくるでしょう。センター試験は知識重視でしたが、共通テストは新学習指導要領が重視する「思考力・判断力・表現力」に沿った出題になるからです。

この「学力の3要素」をマーク方式で測ろうとすると、題材、資料、出題形式、問い方などに工夫が必要になります。過去3年間の「過去問」を見れば、納得がいくことでしょう。